

口 絵

序

木祖村長 武重 善博

凡 例

第 章 ムラで暮らす …………… 1 ～ 50

はじめに…………… 3

第一節 ムラとイエ(家)…………… 4

一 小木會…………… 4

二 藪 原…………… 5

三 菅…………… 5

第二節 ムラ(村)の組織…………… 8

一 三つの村から一つの村へ…………… 8

二 小木會地区…………… 9

三 菅地区と吉田地区…………… 10

四 藪原地区…………… 11

第三節 本家と分家…………… 12

第四節 ムラ(村)の中で共に生きる…………… 13

一 深沢との(小木會)留め書き…………… 13

二 冠婚葬祭…………… 20

三 労働を通して…………… 21

第五節 ムラ(村)の仲間…………… 24

一 子どもの集まり…………… 24

二 青年 壮年 老年の集まり…………… 26

三 その他の仲間…………… 29

第六節 共有の土地や施設…………… 31

一 馬に関するもの…………… 31

二 郷 倉…………… 31

三 堂 宇…………… 32

四 水の使い場…………… 33

第七節 ムラ(村)のきまり……………34

第八節 村の家名と家紋……………37

一 はじめに……………37

二 集落と家名……………38

三 木祖村の家名……………40

(1) 小集落と家名 40 / (2) 藪原宿と家名 41

四 苗字と家紋……………45

(1) 家紋の種類数 45 / (2) 木祖村に多い家紋 46 / (3) 他地

域とのつながりを表す家紋 47 / (4) 木祖村の姓(苗字) 50

第二章 喜びと悲しみ……………51
51
80

はじめに……………53

第節 養育……………54

一 妊 娠……………54

二 安産祈願……………55

三 出 産……………56

四 産後の儀礼……………59

第二節 年齢に応じた風俗 儀礼……………62

一 初節句(供)……………62

二 初誕生……………63

三 七五三……………63

四 一人前の祝い……………65

五 ヤクオトシ(厄落とし)……………66

六 年祝い……………67

第三節 婚 姻……………68

一 通婚圏……………68

二 縁組の成立……………68

三 婚 約……………69

四 婚 礼……………70

五 里 帰 り……………72

第四節 死 と 喪……………73

一 臨終の儀礼……………73

二 死の通知……………73

三 ツヤ(通夜) 納棺……………75

四 葬儀(葬式)……………76

五 年 忌……………79

第三章 暮らしのくふう……………81
81
142

はじめに……………83

第一節 衣とワラの生活……………84

一 普段着と野良着……………84

(1) ワツパリとツツソデとケンロクソデ(上衣) 84 / (2) ユキ

二 山仕事着と足ごしらえ……………86
バカマとスツポリ(下衣)……………85/3) 肌着……………86

(1) 足ごしらえ……………86/2) コシカワとチョッキ……………88

三 晴着 喪服……………89

四 かぶり物と髪型……………89
(1) かぶり物……………89/2) 髪型……………90

五 履物(ワラゾウリ ワラグツ 下駄)……………91

六 雨具と防暑 防寒具……………93

七 縄とゴザ イチコなど……………93

八 衣いの賄まかない……………95

(1) 麻・木綿・絹など……………95/2) 針仕事……………100/3) 洗濯……………101/5) 洗い張り……………101/5) 布団の洗濯……………102

二 日々の食べ物……………103

(1) 主食とそれを補う食べ物……………103/2) 一日の食事……………105/3) コピル(間食)……………105

二 凶作の備え……………106

三 冠婚葬祭等の料理……………106
(1) 婚礼の料理……………106/2) 葬式の料理……………107/3) その他……………107

四 副食として日常食べるもの……………107
(1) 漬物……………107/2) 凍こみらせて作る食べ物……………108/3) 干して保存する食べ物……………109/4) 野菜の保存……………109

五 そのほかの主な食べ物……………109

(1) ミソ(味噌)・タマリ……………109/2) 豆腐……………110/3) 餅……………111/4) 山菜とその食べ方……………112

(5) 木の実・草の実とその食べ方……………113/6) 獣けもの・鳥・魚・へビ……………114

カエル 昆虫など……………114

六 年中行事の食べ物……………116

七 食の伝承……………118

第三節 住生活……………120

一 民家の面影……………120

(1) 藪原宿……………120/2) 菅 小木曾 吉田……………121

二 家を建てる場所……………121

三 家の周り……………122

四 農家の間取りとその利用……………124

五 庄屋(組頭)の家……………130

六 宿場の民家……………130

七 板 倉……………130

八 屋根と屋根板……………134

九 家を建てる……………136

十 大工賃金の変遷……………141

第四章 人と物の交わり……………143

はじめに……………145

第一節 ムラ(村)とムラ(村)を結ぶ道……………146

一 ムラ(村)内を行く……………146
二 集落を巡る道……………147

(1) 五月ごごう日から小木曾分校へ行く道 147/(2) 小木曾から鳥居
峠や藪原へ行く道 149/(3) 小木曾から菅へ行く道 149/(4)
菅の道 150/(5) 吉田の道 151

第二節 峠を越える道……………152

(1) 鳥居峠 152/(2) 境 峠 153/(3) 神谷峠 155/(4) 鉢盛
峠 156/(5) 風吹峠 156

第三節 あきない……………158

一 他所から来た行商……………158
二 村内の行商……………159
三 薪売り……………160
四 持子もちこと便利屋……………160
五 木櫛もぢと行商……………160

第四節 人や物を運ぶ……………161

一 馬車と乗合バス……………161
二 ケイベン(軽便 林鉄)……………162
三 ウンソ(運送馬)……………163
四 バアセ……………164
五 しょう(背負う)……………164
(1) イチコとシヨイナワ 164/(2) シヨイコとセイタ 165

六 モッコとテンビン……………166
七 オケ(桶)とカゴ(籠) ビクなど……………167

第五節 道の確保……………168

一 道普請……………168
二 橋……………168

第五章 山で生きる……………171

はじめに……………172

第一節 山と暮らし……………174

一 御料林と民有林……………174
二 カチキ(刈り敷)山と農業……………175
三 入会と山の口……………176
四 カチキ刈りとカチキ敷き……………177
五 カツボシとニゴ取り……………177
六 ノビツケ(野火付け)……………180
七 薪まきぎ伐りと炭焼き……………180
(1) マキ(薪)とポヤ 180/(2) 炭焼き 183
八 山で稼ぐ……………186
(1) 柚庄屋 186/(2) 柚の入山 187/(3) ソマ(柚)とヒヨ(日
傭)の仕事 189/(4) キンマとソリ 193/(5) 山で暮らす 195/(6)
山ノ神 197

第二節 土とともに……………198

一 小木曾の農家の農事暦……………199

二 菅の農家の農事暦……………201

三 木曾馬と共に……………203

(1) 堆肥出しから田植えまで……………203
(2) 夏のころ……………204
(3) 稲刈りの前後……………205
(4) ササ刈り……………205
薪運び……………205

四 稲作り……………207

(1) 木祖村で栽培された稲の品種……………207
(2) 稲作り……………208
(3) 水車とバツタリ……………217
(4) 水田を掘る……………219

五 畑作……………222

(1) 機械化される以前の畑作農業……………223
(2) コヤシ上げ……………227
(3) 機械化された現代の畑作……………229

六 農業と女性の苦勞……………229

(1) 母の手……………230
(2) 妊婦の田植えの苦勞……………231
(3) 育児と農業……………232

七 農家の副業あれこれ……………233

(1) 冬のワラ仕事……………233
(2) 凍み豆腐工場……………236
(3) 竹細工……………238

第三節 お蚕さま……………239

一 養蚕の思い出……………239

二 蚕の一生……………240

(1) 掃き立て……………240
(2) 蚕の「休み」……………240
(3) 食い盛り……………241
(4) 上族……………241
(5) ヤトイから出荷……………241
(6) 苦勞したこと……………241

など……………242

三 養蚕の道具と仕事……………243

四 養蚕仕事の工夫……………246

五 桑畑の手入れ……………249

第四節 馬から牛へ……………251

一 木曾馬の飼育……………252

(1) 厩のようす……………252
(2) 馬の飼育や世話……………253
(3) 飼料の確保……………254
(4) 堆肥出し……………256
(5) 馬の病氣……………257
(6) 馬のお産……………258
(7) 馬の最期……………259
(8) 馬市……………260
(9) 軍馬徴発……………262

二 牛の飼育……………263

(1) ある主婦の回想……………263
(2) 搾乳酪農と繁殖和牛……………264
(3) 飼育の実際とその苦勞など……………264
(4) 飼料の確保……………265
(5) 堆肥の処理……………266
(6) 疾病予防や配慮……………267

三 その他の小家畜……………268

(1) ウサギ(家ウサギ)……………268
(2) ヤギとメンヨウ……………269
(3) 養豚農家の話……………269
(4) 養鶏……………271

第五節 狩猟と漁ろう……………274

一 狩猟……………274

(1) 銃によるけもの猟……………274
(2) 田下忠太郎氏の「狩猟収入帳」……………276
(3) トヤ(鳥屋)かすみ網(狐)と暮らし……………278
(4) その他の狐……………281

二 漁ろう……………287

(1) ウケ(釜) 288 / (2) 網漁 289 / (3) 釣り 290 / (4) その他の川漁 291

第六章 木と暮らし……………293 / 340

はじめに……………295

第一節 お六^{ろくし}に携わった人々……………296

一 木桶生産のあゆみ……………296

二 桶職人の暮らし……………297

(1) 桶問屋と職人の生活 297 /

(2) 「桶職帳」に見る職人の生活 298 / (3) 暖房と薪^たき物 306 /

(4) 日用品 307 / (5) 職人の仕事場 308 / (6) 服装 310 /

三 木桶の材料……………311

四 桶木取り職人……………312

五 お六桶づくりの道具……………316

(1) バン(盤) 317 / (2) アラシコ(粗匏) 317 / (3) ジョウシ

コ(上匏) 318 / (4) ハビキノコ(歯挽き鋸) 319 / (5) アテガ

イ(当て交い) 319 / (6) スリタシヤスリ(擦り出し鏝) 320 /

(7) ハドオシ(歯通し) 320 / (8) ナカヌキノコ(中抜き鋸) 321 /

(9) ヤマヌキノコ(山抜き鋸) 322

六 お六桶の形の変遷と製作工程……………324

七 桶挽き職人になるには……………330

第二節 桶ユイ(結い)……………332

一 桶ユイ(結い)師……………332

二 材料とその入手……………333

三 工程……………335

四 製品の種類……………335

五 その他……………336

第三節 下 駄……………337

一 下駄材としてのネズコ……………337

二 下駄職人……………338

三 工程……………338

四 製品の種類……………339

五 生産と販路……………340

六 その他……………340

第七章 季節の移り変わりとともに……………341 / 368

はじめに……………343

第一節 『岨俗一隅』と宮田敏……………344

一 『岨俗一隅』……………344

二 宮田敏……………344

第二節 村の年中行事と『岨俗一隅』にみる年中行事……………345

一 正月の行事……………345

二 春から夏へ…………… 355

(1) 正月の準備 345 / (2) 正月 349 / (3) 二月 354

(1) 三月 355 / (2) 四月 357 / (3) 五月 359 / (4) 六月 360 / (5) 七月 361

三 お盆の行事…………… 361

(1) 八月 362

四 秋から冬へ…………… 365

(1) 九月 365 / (2) 十月 366 / (3) 十一月 367 / (4) 十二月 367

第八章 祈りとまつり…………… 369 / 426

はじめに…………… 371

第一節 村人の信仰…………… 372

一 講…………… 372

(1) 愛宕講 372 / (2) 庚申講 375 / (3) 秋葉講 380 / (7) 地蔵講 382 / 豊川 382 /

(5) 戸隠講 380 / (6) 念仏講 380 / (7) 地蔵講 382 /

(8) 伊勢講と神風講 382 / (9) 太子講 383

二 山ノ神…………… 384

三 吉田のササギ…………… 385

第二節 御嶽信仰…………… 387

一 御嶽信仰の歴史…………… 387

二 木曾谷の御嶽信仰と講社…………… 389

三 木祖村の御嶽信仰と講社…………… 390

四 登拝と霊神碑…………… 393

第三節 藪原神社と藪原祭り…………… 396

一 藪原神社と祭りの概要…………… 396

二 シモ(下)獅子…………… 400

(1) 準備とうち習い 400 / (2) 宵祭り(七月八日) 402 / (3) 本祭り(七月九日) 403 / (4) あと祝い(七月十日) 405

三 カミ(上)獅子…………… 406

(1) 準備 406 / (2) うち習い 406 / (3) 囃子 408 / (4) 祭りのフィナーレ 409 / (5) 祭りが終わって(七月十日) 410

四 神輿…………… 411

五 神社の奉納舞…………… 411

(1) 豊栄舞 411 / (2) 浦安舞 412 / (3) 熊野舞 412 / (4) 天狗舞 412

第四節 諏訪神社の祭礼(小木曾)…………… 413

一 獅子舞…………… 414

(1) 四方じめ 414 / (2) お祓い(ご祈禱) 414 / (3) ホライリ(洞入り) 415

二 花火…………… 415

(1) 明治のころの奉納花火 415 /

(2) 大正のころの奉納花火 416

第五節 衣更著神社の祭り(菅)……………417

第六節 小杜の祭り……………420

一 神明宮祭り(吉田)……………420

二 地藏様祭り(吉田)……………420

三 田ノ上観音の祭り(小木曾)……………421

四 八幡祭り(藪原)……………422

五 村の祭り一覽……………425

第九章 暮らしの知恵……………427
450

はじめに……………429

第一節 俗信 占い 忌み……………430

一 天候予知に関することわざ……………430

(1) 雨が降る前触れ 430 / (2) 天気(晴れ)になる前触れ 431 /

(3) 雪が降る前触れ 431 / (4) 風が吹く前触れ 432 / (5) 生業
に関する天候予兆 432 / (6) その他 433

二 忌み嫌われることや日取りなど……………433

(1) 忌み嫌うことわざ 433 / (2) 行事を避ける日 434 / (3) 縁
起の良(悪)いとされていること 435 / (4) その他 436

第二節 子どものしつけ……………437

一 家庭の一員として……………437

二 仕事を覚える上でのしつけ……………439

三 礼節 作法など……………439

四 呪い言葉を含めたしつけ……………440

五 呪いのしぐさなどを含めたしつけ……………440

第三節 民間療法……………441

一 疫病除け(はやりやまい 伝染病など)……………441

(1) お百度参り 441 / (2) 百万たら陀羅 442 /

(3) 狐つき 442 / (4) 祈禱 442 / (5) まじない 442 / (6) ろ
くさんのまじない 442 / (7) その他 442

二 疱瘡流し(疱瘡送り)……………442

三 病気やけがの治療方法……………443

(1) かぜ 解熱 443 / (2) のどが痛いとき 443 /

(3) 目の療法 443 / (4) 歯痛の療法 444 /

(5) 耳痛の療法 444 / (6) 下痢・腹痛・胃腸の痛みなどのときの
療法 444 / (7) うるしかぶれ あせもの治療 445 / (8) できも
の(クサ)治療 445 / (9) やけどの治療 445 /

(10) 打撲・腫れ物 445 / (11) 切り傷・すりむき 445 / (12) トゲが
刺さったとき 445 / (13) マムシにかまれたとき 446 / (14) 日射
病 446 / (15) 寝小使 446

四 まじない(呪い)など……………446

(1) はしか 446 / (2) いぼとり 446 / (3) カンの虫 446

五 常備薬……………447

(1) マムシ酒 447 / (2) クマの胃(胆のう) 447 /

(3) クマの油 447 / (4) カマキリ 447 / (5) グラスケ 447 / (6)

六 菅の虫封じ……………448

第十章 暮らしの中のたのしみ……………451
522

はじめに……………453

第一節 むかし話……………454

一 お六櫛の伝説……………454

二 古池の蛇抜け……………455

三 衣更著神社のご神体……………455

四 怨念に哭く霊……………456

五 涙岩の物語……………457

六 狐恋の木魚……………459

七 カツパの教え……………460

八 野中の馬の碑……………461

九 菅の弘法栗……………462

十 菅の虫封じ……………463

十一 田ノ上の観音様……………463

十二 観音様の木魚としだれ桜……………464

十三 縁結神社……………465

十四 酒買いをした狛犬……………467

十五 神祇様の霊水……………468

十六 肩組み祭り……………469

十七 峠の柵の木……………470

十八 木曾殿の硯水とさかさか柳……………471

十九 西山原の田吾作……………471

二十 山男の足跡……………472

二十一 松ノ木寺……………473

二十二 辺見屋敷……………473

二十三 弘法清水……………473

二十四 取苗大明神……………474

二十五 屋敷の原……………474

二十六 千人塚……………474

二十七 薬原の名の由来……………475

二十八 栗屋の泉……………475

第二節 民謡……………476

一 作業歌……………476

(1) 田植え唄……………476

(2) 小木曾白ひき唄……………477

(3) 土搦唄……………478

二 踊り歌……………481

(1) 甚句……………482

(2) 小木曾追分……………484

(3) 小木曾おけさ……………485

(4) オーサ節……………485

(5) 木曾節(木曾踊り)……………485

三 祝い歌……………487

(1) 加賀の菊酒……………487

(2) 木曾の祝い唄……………487

(3) 長持唄……………488

(4) めでためてた……………489

(5) 五月唄……………489

第三節 民俗芸能……………490

一 藪原宿における民俗芸能のおもかけ……………490

(1) 太神樂獅子 490 / (2) 肩組み祭り 491 /

(3) 八幡宮灯笼祭 491 / (4) 歳ノ神山神祭「湯立神樂」 491 / (5) 寺町 立符祭の花火 492

二 祭礼にみられる民俗芸能……………492

三 村に残された諸芸能……………492

(1) 大平楽獅子舞踊 493 / (2) 獅子之歌 494 / (3) 「お志ゅ

ん・伝兵衛」猿回しの段 495 / (4) 春駒の歌 496 / (5) くどき節

「お早と藤之丞」 499

第四節 子どもの遊びと遊び歌……………502

一 季節の移り変わりとともに……………503

(1) お正月の遊び 503 / (2) 春の遊び 504 /

(3) 夏の遊び 513 / (4) 秋の遊び 516 / (5) 冬の遊び 517

二 その他の遊び 遊び歌……………518

第十一章 暮らしの中のことば……………523
548

はじめに……………525

第一節 木曾の言葉……………526

一 「くれろ」と「あのナシ」……………526

二 方言分布図……………526

三 木祖村の方言の特色……………530

第二節 方言散文……………532

一 久しぶりに知人と行き合った時の会話……………532

二 キノコの時期の寸描……………533

第三節 忘れられた言葉 忘れかけた言葉……………535

参考文献

「木祖村誌 民俗編」関係者名簿

資料提供及び話者一覧

あとがき